

神経研究の進歩 総目次

1956年～1964年（1巻1号～8巻4号）

- 1巻1号 '56年1月
神経系疾患の診断法（Ⅰ）
- 1巻2号 '56年4月
神経系疾患の診断法（Ⅱ）
- 1巻3号 '56年8月
代謝障害と神経疾患（Ⅰ）
- 1巻4号 '56年12月
代謝障害と神経疾患（Ⅱ）
- 2巻1号 '57年4月
脳の生理に関するシンポジウム
- 2巻2号 '57年10月
脳腫瘍
- 2巻3号 '58年3月
第1回国際神経科学学会展望（Ⅰ）
- 2巻4号 '58年5月
第1回国際神経科学学会展望（Ⅱ）
- 3巻1号 '58年10月
第1回国際神経科学学会展望（Ⅲ）
- 3巻2号 '59年1月
肝脳疾患（Ⅰ）
- 3巻3号 '59年4月
肝脳疾患（Ⅱ）・小脳
- 3巻4号 '59年9月
錐体外路系（Ⅰ）
- 4巻1号 '59年11月
錐体外路系（Ⅱ）
- 4巻2号 '60年1月
展望・脊髄血管障害例
- 4巻3号 '60年8月
神経化学懇話会
- 4巻4号 '60年8月
興味ある症例の臨床と病理
- 5巻1号 '60年10月
第1回神経病理懇話会
- 5巻2号 '61年5月
脳血管性障害（Ⅰ）
- 5巻3号 '61年9月
脳血管性障害（Ⅱ）
- 5巻4号 '61年12月
脳血管性障害（Ⅲ）・精神薬理
- 6巻1号 '62年3月
脳炎・膠質細胞（第2回神経病理懇話会）

- 6巻2号 '62年7月
小児神経病学
- 6巻3号 '62年9月
第4回神経化学懇話会特集号
- 6巻4号 '62年11月
神経解剖
- 7巻1号 '63年1月 ￥1,400
脳腫瘍（第3回神経病理懇話会）
- 7巻2号 '63年3月 ￥1,200
神経疫学・診断検査法
- 7巻3号 '63年6月 ￥1,400
脳研究のあゆみ
- 7巻4号 '63年8月 ￥1,200
第5回神経化学懇話会特集号
- 8巻1号 '64年1月 ￥1,200
末梢神経（第4回神経病理懇話会）
- 8巻2号 '64年4月 ￥1,200
奇形性神経疾患
- 8巻3号 '64年7月 ￥1,300
第6回神経化学懇話会特集号
- 8巻4号 '64年11月 ￥1,000
視床—構造・機能・臨床
- 9巻1号 '65年3月 ￥1,000
蛍光抗体法とVirus性脳脊髄炎
- 9巻2号 '65年7月 ￥1,000
代謝性神経疾患
ミオパチーの疫学と臨床
- 7巻1号までおよび7巻3、4号は品切れになっています。

'65年9月 第9巻 第3号 1,000円

第7回神経化学懇話会特集号

- 【巻頭言】……………中 脩 三
- 【シンポジウムⅠ 脳の構成物質】
- 脳組織における ribonuclease inhibitor の存在とその精製の試み…間瀬 桂吉・他
- 牛脳より抽出される生物学的活性ポリペプチド……………片岡 喜由・他
- 牛脳中の酸性ペプチド（Ⅰ）……………柿本 泰男・他
- 牛脳中の酸性ペプチド（Ⅱ）……………金沢 彰・他
- チロシン水酸化酵素—脳および交感神経分布臓器に特異的なカテコールアミン生合成酵素……………永 津 俊 治

【シンポジウム IV. 神経組織の細胞内顆粒】

脳内におけるカテコラミンの含有

顆粒……………清水 信夫
 脳 subcellar units の生化学的研究……………植村 慶一
 興奮伝達の形態学的背景……………内 蘭 耕二
 分離神経終末の研究……………黒 川 正 則
 末梢神経における伝達物質顆粒の分

離の試み……………片岡 喜由・他
 神経分泌……………佐野 豊・他
 神経シンポジウムを終わって……………白 木 博 次

【原 著】

門脈外科領域における肝性脳症の臨

床的ならびに実験的研究：第1

編 臨床的研究……………豊 島 範 夫
 家族例における Wilson 病の臨床と
 生化学……………福 田 一 彦

【古典のページ】

いわゆる「Horner 症候群」につい

て……………萬年 甫・他
 眼瞼下垂の一型について—1869年—…… J.F. Horner
 吉岡愛智郎(訳)

’66年3月 第10巻 第1号 1,000円

脳のシンポジウム

【開会の辞】……………本 川 弘 之

【主題 脳研究の方法論をめぐって】

線 維 結 合……………草 間 敏 夫
 脳細胞研究の新しい方法……………勝 木 保 次
 脳の生化学的研究……………塚 田 裕 王
 神経病理学的主方向について
 の 2, 3 の考察……………白 木 博 次
 精神医学の科学的基礎としての行動
 研究……………臺 豊

情報工学から見た脳の機能……………南 雲 仁 一

【主題 ニューロンをめぐって】

シナプスの電子顕微鏡の構造……………浜 清
 神経細胞の測量……………萬 年 甫
 シナプスの伝達物質……………竹 内 昭
 視床ニューロンの活動様式……………中 浜 博・他

【主題 視床下部をめぐって】

視床下部の線維連絡……………伴 忠 康
 視床下部と摂食行動……………大 村 裕
 視床下部と性機能……………小 林 隆・他
 視床下部と情動行動……………中 尾 弘 之

【主題 睡眠をめぐって】

睡眠のポリグラフィ的研究……………大熊 輝雄・他
 睡眠における外側膝状体の反応性……………岩 間 吉 也
 睡眠と遠心機能……………久 保 田 競
 ナルコレプシーの脳波学的研究—逆

説睡眠に関連して……………金子 仁郎・他
 低級脂酸の臨床的応用……………山 村 秀 夫・他

【原 著】

門脈外科領域における肝性脳症の臨

床的ならびに実験的研究 第2

編 実験的研究……………豊 島 範 夫

【古典のページ】

ゴルジについて……………萬 年 甫
 ニューロン説—理論と事実—…… Camillo Golgi
 萬年 甫(訳)

’66年7月 第10巻 第2号 1,000円

第8回神経化学懇話会

序にかえて……………塚 田 裕 三

【一般演題および討論】

脳内アミノ酸代謝に及ぼすフェニー

ルアラニンの影響……………野 口 鉄 也・他

Infusion Method による脳アミノ

酸・蛋白代謝の研究……………渡 辺 昌 祐

幼若ラッテ脳単離核における蛋白合

成……………間 瀬 桂 吉

脳の細胞核の分離と DNA の抽出……………森 浩 一・他

家兎摘出網膜でのアミノ酸および核

酸の代謝……………塚 田 裕 三・他

白鼠摘出交感神経節のアミノ酸輸送

と活動電位……………永 田 豊・他

慢性覚醒剤中毒マウスの脳 ATPase

について……………大 須 賀 恒 夫・他

マウス自発運動量と脳内カテコル

アミン……………亀 山 勉・他

脳アセチルコリンエステラーゼの量

的分布差および細胞学的局在部

位に及ぼす電気ショックとスト

レスの効果……………福 田 哲 雄・他

脳ミトコンドリアの ADP 呼吸調節

およびミトコンドリア内 PN の

酸化還元に及ぼす Mg イオン

等の影響……………岩 本 省 司・他

脳ミトコンドリアの分離調整法につ

いて……………瀬 田 喜 一 郎・他

脳における NAD (DPN) の生合成

【シンポジウム II 神経系病態の生化学】

- 白鼠および猿による実験的フェニー
ルケトン尿症の研究……………平野 修助・他
実験的 porphyrin 症の神経化学的
研究……………中尾 喜久・他
マウス脳室内注入法より見た痙攣誘
発とイオン—特に Ca イオンと
の関係……………喜多富太郎・他
各種痙攣パターンの局所神経化学的
研究……………融 道男・他
ミオクロヌス小体の超微細構造とミ
オクロヌスでんかんに関する臨
床生化学的研究……………難 波 益 之
黒内障性白痴脳の脂質の分析と組織
化学……………猪瀬 正・他
Biochemistry of Multiple Sclerosis ……C.M. Plum

【特別講演】

- Phenylketonuria; The Pathogenetic
Problems of a Molecular Disease
Affecting the Nervous System…W.Eugene Knox
Histamine and the Nervous System,
including Original Studies on His-
tamine Formation and its Inhi-
bition……………W.G. Clark

【一般演題】

- 神経疾患に関する免疫化学的研究……有岡 徹・他
Near-freezing method による脳部
位別アセチルコリン定量法……………高 橋 良
神経終末—新分離法とNa-K ATPase
活性の存在……………黒川 正則・他
脳白質の細胞分画知見……………加藤 尚彦・他
脳のイノシタイドとそれへの ³²P 組
入れについて……………林 浩平・他
脳切片におけるアミノ酸の能動輸送
—特に GABA 取り込みの局所
的特徴について……………中村 陸郎・他
白鼠摘出頸部交感神経節のアミノ酸
代謝の研究……………永田 豊・他
C¹⁴-グルコースを用いたネコ脳のア
ミノ酸タンパク代謝の研究……………大森文太郎・他
肝臓酵素の活性調節と視床下部 (II)
—特にその神経性機構の解析に
ついて……………嶋津 孝・他
マウスの部分脳における NAD の確
認と Hydrazine 2 HCl の影響 ……斎藤 章二・他
脳腫瘍の診断における乳酸脱水素酵
素 Isozyme ……千ヶ崎裕夫・他

- X線照射の脳蛋白質代謝ならびに脳
組織呼吸におよぼす影響……………原 隆夫・他
脳の核酸におよぼす tricyano-amino-
propene の影響……………中 脩三・他
慢性覚醒剤中毒マウスの脳クレアチ
ン燃酸, アデニンスクレオチド
の変動……………大 須 賀 恒 夫

【閉会の辞】

- 第7回神経化学懇話会を終つて……………佐 野 勇

【古典のページ】

- 老年期の特異な症例について—1911
年—……………Alois Alzheimer
吉岡愛智郎(訳)
Alois Alzheimer について……………吉 岡 愛 智 郎

【原 著】

- 脳外傷および脳腫脹の生化学的研究
—特にミトコンドリアの機能的
変化を中心に……………荒木 千里・他
Myopathy の筋電図について ……室根 郁男・他
'65年12月 第9巻 第4号 1,000円

神経シンポジウム

- 【開会の辞】……………荒 木 正 哉

【シンポジウム I. 螢光抗体法と神経組織】

- 螢光抗体法からみたマウスの実験的
ヘルペス脳炎……………山本 達也・他
実験的狂犬病—新生児マウスにおけ
る発生病理……………大 谷 杉 士
人工リボ蛋白抗原を組織化学に応用
する試み……………山川 民夫・他

【シンポジウム II. 代謝性神経疾患】

- 神経筋疾患の組織化学……………宇 尾 野 公 義
中枢神経系のカルミン陽性物質の動
態—肝脳疾患における糖原代謝
の問題によせて……………小田 雅也・他
神経組織におけるグリコーゲン代謝
の組織化学……………武 内 忠 男
実験的高アンモニア血症におけるグ
リア核の態度……………諏訪 紀夫・他

【シンポジウム III. 髄鞘形成と二次変性】

- 組織培養法による髄鞘形成および維
持時の酵素組織化学的研究……………米 沢 猛
髄鞘形成とグリア……………中 沢 恒 幸・他
中枢二次変性の電子顕微鏡的研究
—軸索および髄鞘の変化……………谷 栄 一
神経線維の変化と酵素の分析……………熊 本 哲 三

- とその代謝回転について……………出口 武夫・他
 脳における NAD 代謝の特異性—と
 くに肝臓との比較において……………川合 仁・他
 自律神経系と肝の糖質代謝……………嶋津 孝・他
 脳脂質に関する研究—第1報: ニワ
 トリの脳の成熟過程における脂
 質および脂酸の推移……………相沢 豊三・他
 神経成長促進因子 Nerve Growth
 Promoting Factor (NGF) の
 研究(その2)……………中沢 恒幸・他
 脳 LDH isozymes の研究……………伊藤 斉・他
 髄液の酸塩基平衡に関する研究……………田崎 義昭・他

【Special Lectures and Discussions】

- Protein Specificity and Neuronal
 Function ……………F.O. Schmitt
 Neurochemical Studies in Subcel-
 lular Fractions of the Brain ……E. De Robertis
 Neurochemical Correlates of
 Behavior ……………M.H. Aprison
 The Effect of Psychotropic Drugs
 on the Metabolism of Cerebral
 Monoamines ……………A. Pletscher
 The Interaction of Injected Reser-
 pine and Dihydroxyphenylala-
 nine or D-Amphetamine on
 Electrophysiological and Beha-
 vioral Responses in a Condi-
 tioned Approach Situation in
 the Cat……………K.F. Killam et al.
 Trends in Developmental Neuro-
 chemistry……………J.P. Schädé
 Enzymatic Basis for the Active
 Transport of Na and K across
 the Cell Membrane ……………J.C. Skou

【第6回神経病理学会】

- 神経病理研究の回顧と将来の展望……………王 丸 勇
 発癌物質による腫瘍生成過程に見ら
 れるウイルス様小体について……………生 田 房 弘
 摘出脳腫瘍細胞内に観察された多角
 結晶様構造……………谷 栄 一
 一般演題(1)~(73)抄録・討論

【古典のページ】

- カハールについて……………萬 年 甫

ニューロンの構造と結合

- ……………サンチャゴ・ラモニ・カハール
 萬年 甫(訳)

'66年10月 第10巻 第3号 1,000円

【開会の辞】……………本 川 弘 一

【主題 脊髄の構造と機能】

- 司会総括……………小 川 鼎 三
 脊髄の細胞構築学……………岡 本 道 雄
 脊髄運動神経細胞における
 シナプス伝達……………荒 木 辰之助
 指定発言 皮膚からの
 運動抑制について……………久 保 田 競
 二, 三の正常および異常脊髄反射の
 発現機序について……………藤 森 聞 一
 指定発言……………本 間 三 郎
 種々の脊髄疾患における傷害の
 撰択的局在について……………豊 倉 康 夫
 指定発言 転移性腫瘍による脊
 髄圧迫症の臨床病理学的考察……………荒 木 淑 郎
 指定発言 脊髄の血行と
 交感神経切除……………木 村 忠 司

【主題 脳と行動】

- 司会総括……………吉 井 直三郎
 ネズミの条件行動における
 海馬の役割……………二 木 宏 明
 指定発言……………小池上 春 芳
 行動空間の解析……………平 尾 武 久
 指定発言……………臺 弘
 辺縁系—視床下部による性ホルモンの
 フィードバック調節機序について……………川 上 正 澄
 代謝異常と脳の機能障害……………柿 本 泰 男
 指定発言 脳の機能生
 化学的研究……………塚 田 裕 三
 諸種中樞作用薬と行動……………小 林 竜 男
 指定発言 薬物作用は動物の
 学習または行動経験によつ
 て変型される……………島 本 暉 朗

【主題 視床の構造と機能】

- 司会総括……………草 間 敏 夫
 視床腹側核の比較解剖と線維結合……………新 見 嘉兵衛
 指定発言……………大 谷 克 巳

慢性的視覚領切除による

外側膝状体の機能変化……………岩間 吉也・他
指定発言 ウサギおよびネコの外側

膝状体についての実験的研究…金 関 毅
指定発言……………中 浜 博

神経病理学の立場からみた

視床の機能……………白 木 博 次
指定発言 視床の血管性障害の

臨床病理学的考察……………椿 忠 雄

人脳定位脳手術の経験からみた視床

VL 核とその周辺領野について…植 林 博太郎

指定発言 人視床刺激による誘発電
位とその定位脳手術への応用…佐 野 圭 司

指定発言 視床腹側核の自律系反応と
眼瞼閉鎖について……………堺 章

【主題 脳循環】

司会総括……………荒 木 千 里

脳血管の比較解剖学的研究……………和佐野 武 雄

脳循環と脳機能—その生存限界……………須 田 勇

指定発言 脳灌流よりみた

脳循環の問題……………川 北 幸 男

撰択的脳冷却法の脳外科的応用……………半 田 肇

指定発言……………後 藤 文 男

指定発言 脳血流停止の限界……………工 藤 達 之

脳卒中の成因的事項……………亀 山 正 邦

指定発言……………光 野 孝 雄

指定発言……………勝木司馬之助・他

脳浮腫の電子顕微鏡学的研究……………植 木 幸 明

【原 著】

神経筋疾患の組織化学的研究……………岡 田 高 明

【古典のページ】

Guillain-Barré 症候群 (1916年) ……平 山 恵 造

細胞反応のない、脳脊髄液の蛋白増加

を伴った根・神経炎症候群について

一腱反射の臨床的ならびに描画…G. ギラン・他

上の特性に関する考察—平山恵造 (訳)

'66年12月 第10巻 第4号 1,000円

【特集 記憶】

「記憶」の特集にあたって……………時 実 利 彦

ネウロンと記憶……………久 保 田 競

記憶の生理学的基礎……………二 木 宏 明

J.Z. ヤング：一つの脳に貯えられ

る2種類の記憶……………東大脳研生理グループ訳

記憶の分子仮説……………塚 田 裕 三・他

電子計算機のメカニズムと記憶……………野 崎 昭 弘

臨床における記憶の問題……………稲 永 和 豊

「記憶」研究に関する文献集 [1961~1964]

【第7回神経病理学会】

はじめに……………飯 塚 礼 二

ミオクロヌス小体の生検像……………大 田 民 男・他

多核神経細胞について……………浜 田 晋

Lewy Body を伴った Hallervorden-

Spatz 症候群の1剖検例……………秩 父 政 夫・他

慢性経過をとつた日本脳炎と考えられ

る1剖検例……………十 束 支 朗・他

Leukodystrophy with Diffuse Rosen-

thal Fiber Formation (Alexander's

Disease) の1剖検例……………入 久 巳・他

Foix-Alajouanine 病の1例……………松 下 正 明・他

水俣病長期経過による脳病変の推移…松 本 英 世・他

動物の神経原線維変化の実験的研究

—とくにその発現部位について—

……………田 中 政 春

有機水銀中毒症の神経病理学的研究…小 宅 洋・他

“豚の神経性皮膚症”に関する病理組

織学的研究……………佐 藤 博・他

一般演題 [1]~[102] 抄録・討論

'66年3月 第11巻 第1号 1,000円

【特集 いたみ】

いたみをめぐる当面の諸問題……………山 村 秀 夫・他

いたみの測定……………清 原 迪 夫

痛覚の解剖学……………草 間 敏 夫

頭痛の発生機序……………喜 多 村 孝 一

いたみの中枢機構……………石 島 武 一

中枢性疼痛

—とくに suprachiasmatic level

における障害例を中心として—…亀 山 正 邦

筋のいたみ……………石 田 肇

関節痛……………佐 々 木 智 也

三叉神経痛……………若 杉 文 吉

いたみの脳外科的治療……………都 留 美 都 雄

精神科領域におけるいたみの問題…吉 松 和 哉・他

【原 著】

遺伝性運動覚反射性てんかん

—急激な運動開始によつて惹起

するけいれん発作の5家系……………福 山 幸 夫・他